

発行日：1998年1月27日 発行人：一西出雲子 撮影者：田中裕美子
照明探偵団・萬葉社 〒100-0004 東京都千代田区神田錦町5-6 14Fセイティング プランテース アンシャーツ内（萬葉子・田中裕美子）
TEL: 03-5499-1028 FAX: 03-5499-1023 E-mail: hanteidan@npn.bekkoame.or.jp http://www.bekkoame.or.jp/~tanteidan/

照明探偵団通信

vol. 03 SHOMEI TANTEIDAN TSU-SHIN

2050年東京夜景～未来の予測

未来の夜景を考えるための本

団長コラム 100歳まで生きている？

照明探偵実践ミニ講座「写真撮影編」夜景写真をきれいに撮る方法～初級編

照明探偵団俱乐部活動1／街歩き（お台場編）報告

照明探偵団俱乐部活動2／街歩き（池袋編）報告

照明探偵団俱乐部活動3／研究会サロン（秋葉原 ヤマギワリビナ）報告

照明探偵団俱乐部活動4／研究会サロン（田中 iS-KiT）報告

照明探偵団俱乐部活動5／街歩き（茅草編）報告

団員からの投稿 光を使ったアート作品

照明探偵団俱乐部'98入会のご案内

あなたも照明探偵団発刊!!

照明探偵団日記



2050年TOKYO夜景～未来の予測

「照明探偵団は、知的遊戯なのだと想っている。遊戯するが故に楽しく、知的であるが故に好奇心を満たすのに違いない。単なる知的満足や単なるお遊びでないところがイイのである。「2050年TOKYO夜景」というテーマは、まさに照明探偵団の知的遊戯心を喚起させるテーマであろう。2050年と言うと、今から50年以上も先のことだから、おそらく僕自身生きていないだろうし、今年20才になる人だってお爺さんやお婆さんになっている訳だ。そう考えると、「ちょっと恐いじゃないですか。そんな先のこと考えたく無いじゃないですか。できれば、明日や明後日に楽しいことがあったほうがイイわけですから。」と思うむきもあるだろう。しかし、これは、知的遊戯なのである。十分に想像力を働かせるには、明日や明後日といった現実味のあるターゲットの設定では面白くないのである。また、「TOKYO夜景」としたのは、想像力を働かせるテリトリーは、身近であって欲しいという願いによるものである。機械化、情報化が進み、い



くら地球が時間感覚として小さくなつたといつても、ブエノスアイレスやマラケシュジャリアリティがないであろう。「TOKYOがやはりイイんですよ。TOKYOは、日本の都市の象徴です。東京に住んでいない人だって、銀座や新宿や渋谷、そしてお台場なんていう場所は、メディアを通して知っています。」だから、「2050年TOKYO夜景」だと思うのである。

ところで、NHKが5年に一度実施している「国民生活時間調査」によれば、日本人の睡眠時間は、1980年から毎年1分ずつ短縮されているという。このまま行くと、単純計算では50年後には、今より50分も短くなっていることになる。つまり、確実に夜の活動時間が増えていくことになる。当然、夜の時間を楽しむための工夫やアイディアも必要になるだろう。一方、夜の楽しさを支えるには、今のところ電気エネルギーが不可欠だ。50年後にも十分なエネルギーが供給されているのであろうか。これも興味深い調査項目である。僕たちが望んでも、エネルギー事情で「ライトアップ禁止」などという条例ができていたら、「夜景を楽しむ」なんてロマンチックな行為は成立しないのだから。さらに、僕たちの感性も変化しているかも知れない

い。ひょっとしたら、光を見て感動しなくなっていることも考えられる。テレビやコンピュータ・ゲームでのバーチャルな光体験の積み重ねで、身体感覚に変化が起きているかも知れないからだ。最近の夜景ブームのように、話題の夜景スポットに単純に価値を見いだすようなことはないだろう。むしろ「光による恐怖体験」とか、「1990年代の光を楽しむツアー」などという遊びがはやってたりして……。ファッショントレンドはどうなっているのだろう。夜、街で着ると美しいウェアが、出来ていたりして。反射率の低い黒っぽい服やその反対の白っぽい服なんていう光を強く意識したデザインコンセプトがあつたり……。建築のトレンドも気になってくる。ガラスを多く使った建築は、夜間は建築の光を都市へ放出するので、照明効率を上げるために遮光が必要になっているかも知れない。これは、夜景を楽しむという観点からは、ちょっと残念なことだが……。今、僕たちは、このように沢山のことが気になってきてる。この「2050年TOKYO夜景」というテーマを追求するために、気になるひとつひとつの事項に楽しんで取り組みたいと考えている。

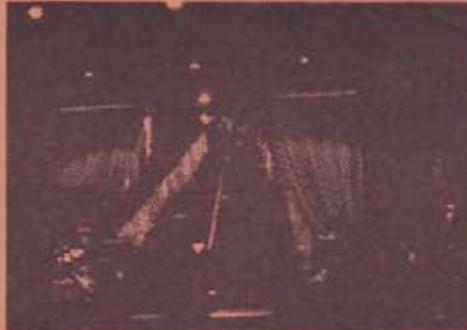
(東海林 弘靖)



「トンネルを抜けたところは……」

東京湾横断道路のトンネルを高速で駆け抜けた後、高速で飛び去る連續した闇明のせいで「ポケモン現象」もどきが起こり、誰もいないままでぐるな道のせいで速度と距離の感覚がなくなつて、意識が遠くのような感覚を味わった。

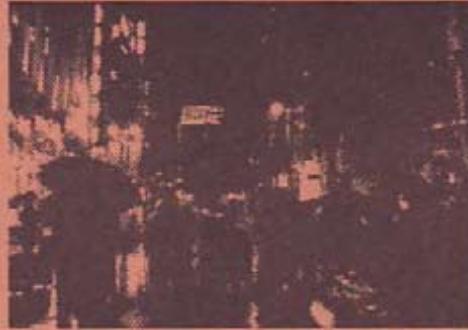




六本木ペルファーレ、きらびやかな階段を、超ミニスカートの女性が降りてくる。



「愛」の一文字が大きく書かれた、たくさんのスポットライトで照らされる「女性専用 CLUB ホスト界日本一」の堂。

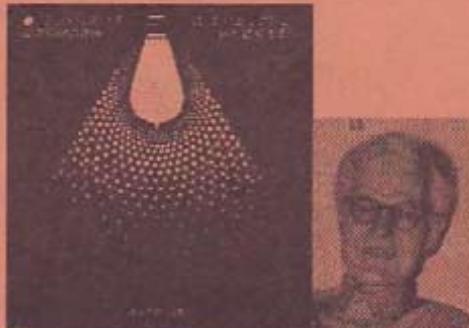


雨が降ると濡れた道路にも光が反射する。雨の日は街がいっそうがらざらして見える。

☆ 未来の夜景を考えるための本

10年、20年先といえばビジネス向けの経済とかトレンド予測、といった本が山積みされているけれども、こういった混沌の世の中では50年後というのではなく正反対の予測が出来るくらい長い先のことですね。SFにはじまり、経済、環境、科学など片っ端から2050年をキーワードに本を漁っています。何冊か紹介します。

光と影の ドラマトゥルギー



「闇をひらく光」
「光と影のドラマトゥルギー」
W. シヴェルブッシュ 著
法政大学出版局 ￥3,800+税

今後の私たちの照明とのつき合い方や行く末をはじめに考えるためには、どのようにして近代照明文化が発展してきたのかを検証することが大前提になります。その意味で、近現代の（人工/電気）照明の西欧に於ける歴史をそれぞれ19世紀、20世紀の2冊に社会文化史として集大成したこの2冊の本は必読です。膨大なリサーチを基盤に、照

明を切り口としながら技術や都市、建築のみならず政治経済、芸術、社会学など総合的かつ包括的に捉えることに成功した著者の偉業には感服するばかりです。図版も豊富で、過去何百年かの間にどれほどに科学技術の発展の恩恵をうけてきたかを、それがどのように私たちの生活を、現在の社会を変えたかを一気に学習することができます。エジソンの電球の発明から100年余りで今があるとすれば、50年後の私たちの光環境は全く違ったものになっているのかも、と想像力を掻き立てられます。

ちなみに著書に心酔した私は4月にニューヨークで静かに文筆活動に励むご本人にお会いしてきました。いずれ照明探偵団のイベントにご登場願いたいと思っています。

「2050年は江戸時代」
石川英輔
PHP出版

現代文明が人間を疎外し、テクノロジーが社会を荒廃させてしまっているとする著者は、日本に大刷新が起き、2050年には江戸時代がそうであったような自給自足の農業国に戻り、人々が豊かさを取り戻す、という内容の本を記しました。読み物としては平坦な内容ですが、SFチックな未来論が氾濫する中では、このような人道的なアプローチに考えさせられます。



「2050年から3000年まで」
31世紀からふり返る未来の歴史
B. スティブルフォード
D. ラングフォード
パーソナルメディア ￥2,884

大胆にも1000年単位で未来を予測してしまおうなんて、「ミレニアム」（千年期）と言う概念のない私たちにはあまり考え方がないこと。何はともあれ、合成写真をふんだんに使って現在のテクノロジーの発展がなお継続して環境破壊や人口問題を克服していくことを願って書かれた楽観的未来論。彼らによると2085年の大地震により、日本という領土は消滅し、日本人はユダヤ人の如く国土を持たない国民として世界中に分散していく……。そうな。

次号に続く

(葛西 玲子)

100歳まで生きている？

98年から2000年までの3年間の探偵団活動を「2050年TOKYO夜景」というテーマを掲げようと宣言してから、あっという間に半年が過ぎてしまった。この間、色々な議論がされてきた。様々な議論からもテーマに対する意見を多数いただいた。しかし一向に活動方針や内容が修練してこないばかりか、混迷の色さえ見せてきた。ウーン困った。

「面出さん、せめて2010年ぐらいにしようよ。それならば少しあは見えて来る気もするんだけど・・・」などという身内の発言まで飛び出す始末。「急にテーマが大きすぎたかな」という独り言を小さく呟いたこともあるが、どこい弱音を吐いちゃいられない。説得力のある未来予想など誰もできるはずもないから2050年としたのだ。私たちは科学者の未来予測論ではなくて、小市民的に未来都市に対する選択的意志を戦わせようとしているのです。

ところで私はこのテーマを、未来をちょっとたつ子供たちに語らせてみたい、というアイデアを持っていた。「どうせそんな先まで私は生きているはずない、ハッハッハ」と胸を張って豪語していた。しかしある日、同じような会話をした後に、ふと不安を感じた。「ウムツ・・・もしかすると、50年先にも俺は嫌われながら生きながらえているかも・・・」。

私は1050年生まれ、2000年に50歳、

2050年に100歳だ！21世紀の日本は年寄り大国になることは目に見えている。今の子供たちにとって棲みやすい街どころか、私たち爺さん婆さんにとての悦楽の街のほうが、よほど真に迫ってくる。そうなのだ、2050年は一億・金さん銀さん時代。私たち健常な老人ががドキドキ、ハラハラしながら迎える日々のことなのだ。

こうなったら開き直りの心境。そんな遠くのことではないかも知れないが、しかし全く想像のつかない未来もある。肝心なのは、私たちがどのように生きていたいか、街はどのようにあるべきかというイメージを強く持つこと。**[2050年TOKYO夜景]**という遠大なテーマはそこから始めよう。

50年前に生まれた私が50年後にどのように世を去るか。その選択肢はいくつかある。先ず私は100歳で大した仕事をしていない。生産的な仕事をして世の中の為になっているはずもない。問題は社会に嫌がられていたり、人に迷惑を掛けていないかどうかだ。私のことだから用意周到に、緑の濃い土地で、いつでも温泉につかれるケアつきの小屋かなんかを搜し当てている。昔の恋人や友人達とも頻繁に会えるわけでもないので、毎朝、日課のようにテレビ電話でお互いの健康話などを交わす。キーボードを叩くこともなく電源を立ち上げるだけで、あとは自動音声でお互いの顔を見ながら楽しい会話が

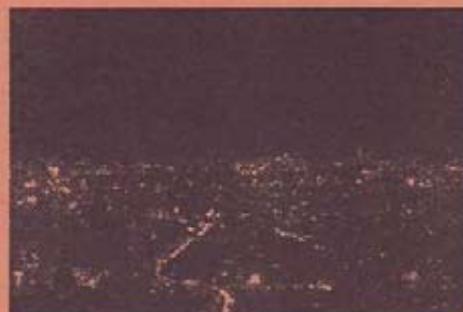
できる。友達の数人は銀座の近くの狭いマンションに住んでいる。東京を離れて棲むことの選択を未だに時々、後悔している。月に何度かは東京へ出て夜景を見渡しながら食事をする元気老人ツアーに参加する。「ウム、若い頃に見た夜景と随分違うな」と呟いて街を俯瞰する。昔は街全体が宝石箱をひっくり返したようにキラキラしていて綺麗だったが、今は真っ暗なところとギンギラギンにけばいところの対比が明確だ。何でも「光の用途地区規制」が敷かれている。そうでもしなければ無尽蔵にエネルギーを消費してしまうらしい。オフィスで働くサラリーマンなんかも「エネルギーIDカード」なるもので一日に使用できる電気料をコントロールされていると聞く。

しかし、ここ東京湾にそびえるアクワタワーの200階、シルバーレストランは何時も年寄りで賑わっている。毎晩「火星の恋」という映像ライトショーが行われるものだからすごい人気だ。あ、そうそう、最近インボンツを治すバイアグラ系の新薬で「フクショウシ」という快適自殺薬が発売されたそうだ。さっそく手に入れよう。2050年には100歳以上の成人には色々な権利が認められている。結構な世の中になったものだ。
(上海に向かう飛行機の中で少し飲み過ぎたかな?)

(面出 薫)

【初級】

「写真撮影編」夜景写真をきれいに撮る方法～初級編



高台から見下ろす市街地の夜景、ライトアップされた建物をはじめとした夜の街の風情を撮影するための注意点を解説します。初級編として、一家に1台はあると思われるコンパクトカメラにネガカラーフィルム(=プリントフィルム)を入れて撮ることを前提とします。コンパクトカメラで夜景を撮るということは、実は一眼レフカメラで撮ることよりも難しいのですが、以下の3つの点に気を付ければ撮れる夜景も多いと思います。

■カメラ

カメラはフラッシュの発光禁止設定が出来るものが最低限必要です。フラッシュを点いて撮影すると5メートルくらいまでのフラッシュに照らされた物に露出が合ってしまい夜景などのそれより暗いものは写りません。たとえ照らされたものが無くてもカメラはそこにあるという前提でフラッシュの光量に露出を合わせてしまいます。夜景シンクロもしくはスローシンクロといって、フラッシュをあびせた手前の人などと同時に背景の夜景も写し込む機能を備えたものもありますが、展望台などではガラス窓の内側からフラッシュを点いてしまうとガラスに反射した光がレンズに入り背景の夜景をかき消してしまいますので注意してください。

■撮影する時刻

晴れた日の、陽が落ちてから10~30分位までの間、まだ西の空に青く残照が残っているうちが最適です。完全に陽が落ちた後だと真っ暗に写ってしまうような部分が、うまくいけば青く染まって綺麗に写ります。白熱灯などのオレンジ色と一緒に画面にあれば色の対比の美しい写真になるでしょう。この残照のあるうちに撮影するということが、コンパクトカメラで夜景を撮る上での最も大切なことです。通常コンパクトカメラは三脚などを用いず手持ちで撮ることを前提としています。そのために手ブレしないよう夜景

撮影に必要なスロースピードのシャッターが切れないようになっている物が多いのです。ですから、街の照明が灯ったら陽が暮れ切らないうちに撮ることが肝心です。もっとも、コンパクトカメラでも三脚を使用したほうが手ブレが少ないシャープな写真が撮れます。コンパクトカメラは軽量ですから三脚も軽量コンパクトなものが十分実用になります。その際はセルフタイマーを使うこと。せっかく三脚を立ててもシャッターボタンを押すときにブレてしましますのでご注意ください。

■フィルム

カメラの性能(=レンズの集光能力)にもよりますが、ISO400くらいの高感度のものが良いでしょう。それでも写りが悪ければISO800に上げてみると良いのでしょうか。ISO400に比べて画質は落ちますが、同じシャッタースピードでも、より暗いものを写すことが出来ます。しかしカメラによってはあまり高い感度には対応できないものもありますので注意が必要です。観光地の土産物屋などではISO100しか売っていないことが多いので旅行にいく際はあらかじめ用意していくことをおすすめします。

さて、これらのこと気に付けて撮影しても安価な同時プリントだと仕上がりがイマイチの場合があります。機械が自動で標準的な現像をしてしまうからです。そんなときはこれぞというコマを手焼きで注文してみましょう。大手現像所に回さず自前で焼き付けを行っているような写真館が良いでしょう。同時プリントよりも値が張りますが、写っている内容に合わせて最適の現像をしてくれるはずです。気に入る現像をしてくれるようでしたら、次回からそのお店ではじめから手焼き注文をすると良いでしょう。

次回は中級編として、上記の3つのポイントの詳細と一眼レフカメラを使った本格的な夜景撮影にも触れてみたいと思います。

(澤田 隆一)

照明探偵団 優美部活動 1 / 街歩き（お台場編）報告

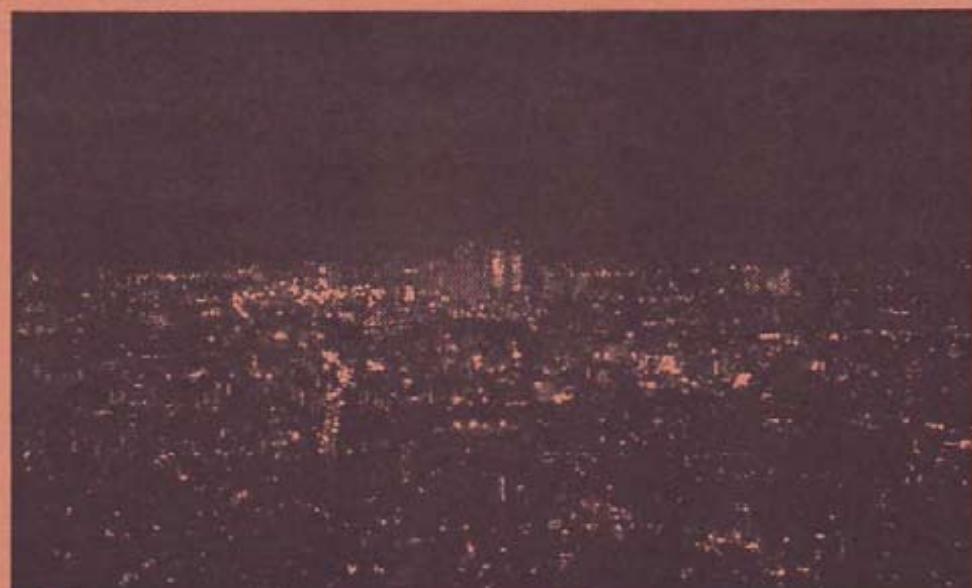
971218 第2回・街歩き探偵「お台場編」
第2回目の街歩きは東京の新名所、お台場です。新橋からゆりかもめに乗って芝浦ふ頭で下車、レインボーブリッジを歩いて渡るため、徒歩で橋のたもとへ。展望台からの眺めはよかったです、ガラスへの室内の映り込みが少々気になり、回員からの厳しいチェックが入ります。実際に橋の上を歩いてみたところ、最初はすぐ横を通り車のスピードと音と排気ガスに少々驚いたものの、慣れるとのんびり景色を楽しみながら歩くことができました。所々に展望用のテッキがあり、橋の主塔を真下から見上げることもできます。ただ、橋全体がガタガタと揺れるため、三脚を使ってもきれいな夜景の写真を撮るのは難しい状況でした。のんびり歩きすぎて警備員に追い立てられながら橋を下りるとそこは第三台場公園。街灯が一つもない暗闇の中を怪しい集団がそぞろ歩きます。左手には海を挟んでクリスマス用に彩られたフジテレビ、デックス東京ビーチ、日航東京ホテルが煌然と輝き、右手には真っ白なレインボーブリッジの姿。どちらも揺れる水面に映ってゴージャスな姿を見せておりました。デックスの前に移動するとそこには大きなクリスマ

スツリーとイルミネーションの数々が飾られ、クリスマスマードでいっぱいでした。海辺＆夜ということで寒さに対してかなり武装して行ったのですが、予想に反してあまり強烈な寒さは感じませんでした。それはなんといっても、とにかくよく歩いたからかもしれませんね……。



照明探偵団 優美部活動 2 / 街歩き（池袋編）報告

980226 第3回・街歩き探偵「池袋編」
池袋を縦横無尽に歩き回る、街歩き池袋編。まずスケールの大きな吹き抜けを持つ芸術劇場のロビーで集合したあと、ナンバ広場とも言われる劇場前の広場を検証。円形の広場の端に立って、相手を物色してみます。中央の噴水の照明や周辺の看板照明からのあかりでほんやり顔が見える程度。このほんやり、がいいのでしょうか、明るい喫茶店にでも移ったら、あら？なんてことになったりして……。その後西口、線路をくぐって東口界隈を、びかびかのカラオケ館、カメラ屋、街灯などをウォッチングしながらそぞろ歩き、トヨタアムラックスの青い姿を見上げて本日のゴール、サンシャイン60にたどり着きました。展望フロアまでのエレベーターは、動き始めると照明が消えてブラックライトが点灯、室内に螢光剤で描かれた絵が浮かび上がり、光ファイバーで演出された空間に早変わりしました。展望フロアより更に上のオーブンデッキに上がり、地上240mの風を感じながら東京の夜景を堪賞しました。繁華街の明るさ、東京を縋って走る動脈のような道路、新宿の高層ビル群、漆黒の闇に包まれた墨田周辺、様々な景色に話題がつきない街歩きでした。



上左：ナンバ広場で明るさチェック 上右：駅ビルでの探偵 下：サンシャイン60の屋上より

照明探偵団俱楽部活動3／研究会サロン報告（秋葉原 ヤマギワリビナ）

照明探偵団俱楽部活動4／研究会サロン報告（田町 iS-KiT）

980306 第3回照明探偵団俱楽部・研究会サロン
秋葉原にあるヤマギワリビナの一角をお借りして行われた研究会サロン。今年から2000年までのテーマである「2050年 TOKYO夜景」をテーマに、未来の夜景を考え始めました。まずは未来の夜景をイメージする材料として、「映画に見る未来都市イメージ」というテーマで木下探偵が集め、近未来を描いた映画の各シーンを見てみました。また、坂尾探偵が「ドラえもん」に出てくる未来都市像を下絵にした夜景のスケッチを持ち込み、参加者全員で同じ下

絵に各自が思い描く未来夜景をスケッチしました。近未来を描くSF映画の中では、明るい未来が描かれる事は少なく、荒廃した街並みと超近代的な高層ビルが共存する混沌とした世界が多いように思われます。全く違う映画の中で酷似したビルが登場することもわかり、映画の中での未来の夜景がだんだんと見えてきました。美しく夢のある未来が「ドラえもん」の中だけの存在ではありませんように・・・。

秋葉原ヤマギワリビナ本館 03-3253-5111

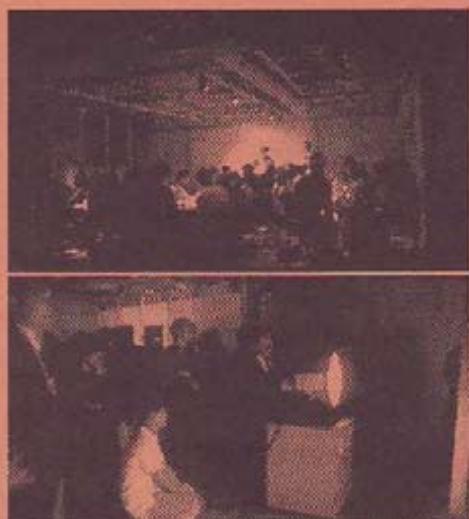


980612 第4回照明探偵団俱楽部・研究会サロン
参加希望が多数寄せられた田町iS-KiTでの研究会サロン。街歩き浅草編の澤田隊長によって行われた街歩き報告に続き、6/1に全日本ネオン協会によって行われた銀座のネオンライトダウンの模様を探偵団員が取材したビデオで検証しました。これは「ネオンが消えるとこんなに街は味気ない」というアピールのパフォーマンスで、15分間晴海通りのネオンが一斉に消されたものです。取材に行った団員は、現地でテレビ局のスタッフに逆取材され、照明探偵団をしっかりアピールしてきたようです。その後、坂本探偵から、バイト先であるコンビ

二の照明レポート、簡単な照明実験についてスライドを交えた楽しい報告が行われました。また、iS-KiTの筒木さんより、普段はあまり近くで見る機会のない大型の投光器や各種ランプ、LEDの数々について丁寧な紹介を頂き、参加者は投光器の強烈な光と熱を間近で体験したり、実際に触れてみたり、カラーシャドウを体験したりしました。会が終了しても興奮さめやらず、参加者同士の立ち話がいつまでも続くサロンとなりました。

iS-KiT (岩崎電気ショールーム) 03-3769-6721

筒木さん談：高校の修学旅行生も来ます。遠慮なく説明を受けないと損をしますよ！



照明探偵団俱楽部活動5／街歩き（浅草編）報告

980427 第4回・街歩き探偵「浅草編」
あいにく雨に見舞われた浅草の街歩きでしたが、予想以上に大勢の団員が集まり、小雨の降る浅草を傘をさしながら歩きました。雷門に集合し、浅草寺、花やしき（残念ながら中には入れませんでした）界隈を路地を抜けながら見て回り、昔ながらの街並みと新しく整備された街並みが隣り合わせる浅草の街を探偵しました。途中、商店街のアーケードで、街灯が徐々に消灯され

る時間に偶然居合わせ、水銀ランプと高圧ナトリウムランプの混合照明を観察するよい機会となりました（下写真：大隈団員提供）。また、古びた商店が並ぶ小さな路地に架かる藤棚に、首だけの道路照明がいくつもくくりつけてある奇妙な照明事情にも出会いました。古い街並みが魅力の浅草ですが、再開発で街並みを整備し、新しく生まれ変わろうとする懸命な浅草の姿も見えてくる街歩きでした。



左：水銀+高圧ナトリウム+袖看板 中：水銀+袖看板 右：袖看板のみ カラーでお見せできないのが残念！

雷門の前にあったガス灯。気が付きましたか？

照明を使った遊びの新提案

お疲れさま。
もう存分にくつろい
じゃってもいいのよ。

私はよくバスに乗る。それも、その路線のその日最後のバス、いわゆる「終バス」というものに乗ることが多い。ご存じの方も多いと思うが、この「終バス」は行き先を表示する幕が赤い。通常は蛍光灯で内側から照らしているものだが、蛍光灯の他に赤色電球が5~6個ついており、終バスではこちらを用いて赤くしているのだ。私はこのアイデアが非常に好きである。照明の色を変える事で、わざわざ赤い幕を用意せずに済ましているのもそうだが、なにより「赤い」ということである。あの赤い光はいかにも『ほら、最終のバスだよ。乗り過ごすと戻れないよ。暗くて怖いよ。』と言っている様な気がして、終バスに乗るときはいつも乗り過ごさないようにドキドキしてしまうのだ。

このように、光やその色によってある種のイメージを連想してしまう事は、個人差はあるにせよ誰にでもあったりするのではないかだろうか。

そこで、「照明にマンガのような吹き出しをつけて遊べないかなあ」と考えた。例えば、真っ白で明るすぎる深夜のコンビニエンスストアの照明に『さあいらっしゃい、わたしはいつでも待っているわ！』とか、飲み屋の赤提灯に『いや～、うまいんだなあこの一杯が。』といった具合である。

また逆転の発想で、吹き出しを先に決めておいて、後からそのイメージにあった光を作る事も可能ではないかと思う。例えば、自分の部屋を照明によって雰囲気を変えよう！というときに、『お疲れさま。もう存分にくつろいじゃってもいいのよ。』と吹き出しを付けて、それから照明計画に取りか

かると、「くつろぎの空間」をコンセプトとしたものとは一味違ったものが出来そうな気がするのだ。

どにもかくにも一度おためしあれ。遊びとまではいかなくとも、きっと暇つぶし位にはなるはず。

ところで、終バスの「赤い」光の話に戻るが、この手法をバスだけではなく、最終の電車でも採用してくれないだろうか。きっと乗り過ごさないように気が引き締まり、タクシー代が深夜料金3割増で5000円などということ（実話）にならずに済むかもしれないと思うのだが……。

（坂本 謙一）



街歩き浅草編にて

照明探偵団俱楽部

'98 入会のご案内

'98年の活動は、今まで行ってきた通信の発刊、ライトアップグリラ、夜景ウォッチングツアなどの継続的な研究成果を生かしつつ、より一層充実した活動内容を予定しています。これまでよりも少し欲張って、2000年までの3年間、継続する研究テーマを明確にして行こうと思います。『2050年・TOKYO夜景』これが活動テーマです。誰も未来予想のつかない時代を迎えて、私たちの住む都市の未来像も明確ではありません。まして2050年のTOKYO夜景など、どんなになっているのやら・・・。しかし、私たちは敢えて半世紀先の混迷する都市夜景を探ります。地球環境はこの半世紀で破滅に向かうのでしょうか。混迷するからこそ多くの論議と探偵ゲームが成立します。体力に任せたフィールド調査ばかりではなく、知恵を働かせて、ゲーム感覚で未来を語りたいと思います。

照明探偵団俱楽部の概要

1. サロン的研究会を定期的に開催する。
2. 街歩き照明調査などの探偵活動を隨時行う。
3. 機関誌「照明探偵団通信」を発刊する。

■会員の特典

1. 照明探偵団の企画するイベントに優先的に参加できる。
2. サロン的研究会と探偵活動に参加できる。
3. 「照明探偵団通信」に投稿参加できる。

■入会

入会資格 特に制限はなし

入会金 無料

年会費 1000円 1999年6月まで

(振り込み手数料別でお願いします)

■入会方法

(1) 右の口座に年会費を振り込む



(2) 別紙入会申込書に必要事項を記入する。



(3) 以下の書類を事務局へ送る。

- ・入会申込書
- ・振り込み金受領書のコピー



(4) 諸活動について隨時ご連絡致します。

あさひ銀行 青山支店

普通預金(店NO.278)

口座 NO.1075901

名義：照明探偵団団長 面出薫

照明探偵団事務局：

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10

(株)ライティングプランナーズアソシエーツ内

TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023

<http://www.bekkoame.or.jp/~tanteidan/> e-mail: tanteidan@ppp.bekkoame.or.jp

■ 照明探偵団・面出薰団長が、照明探偵団の7年にわたる活動を読みやすいエッセイ風に綴った「あなたも照明探偵団」・光のハンティングに、夜の街へいざ! が、日経BP社(定価1800円+税)より出版されました。照明探偵団は、照明デザイナー面出薰を団長に1990年に結成されました。あらゆる角度から街の光を観察・調査するフィールドワークを主体にした、非営利の照明文化研究会です。発足以来、依頼主のいない都市の光環境調査を継続的に行い、その営利を目的としないフィールドワークの成果は1993年に「照明探偵団/S D別冊」(鹿島出版会)という本にまとめられ出版されました。

照明探偵団の5ヶ条や七つ道具を紹介した「照明探偵団の楽しみ方」、コンビニや自動販売機を初めとする夜の街を徘徊する様子を綴った「発見した事件の数々」、多くの人が参加した展覧会や講座、ライトアップグリラなどの照明探偵団活動をまとめた「探偵団のイベント・パフォーマンス」と、赤瀬川原平、藤森照信、島田雅彦各氏らの連続講座に登場した14名のゲストのコメント「14名の名営探偵から学ぶこと」等、世界の夜景が載っている巻頭のカラーページをはじめ、「光の事件」の写真が随所に盛り込まれた楽しい本です。

本の目次をご紹介します。

あなたも照明探偵団 発刊!!



14名の名営探偵も応援

著者陣
赤瀬川原平、島田雅彦、如月小春、近藤桂一
藤森照信、松葉一清、島内秀樹、島田雅彦、井上和哉
山口勝也、井上裕也、近藤春喜、伊東義雄

ISBN 4-88146-162-6 C9000

CONTENTS

まえがき

イントロ的トピックス

- ・ぼく、ぼく、ぼくらは照明探偵団・照明探偵団の紹介
- ・光の足し算で発売する
- ・5人で探偵しよう
- ・現在1700名の探偵団員
- ・探偵団五箇条を心に刻んで
- ・探偵七つ道具を忘れるな
- ・探偵団通信とインターネット
- ・発見した事件の数々
- ・夜の街は自販機に占領された
- ・夜景の色鉛筆を回してみよう

- ・オノン街と赤提灯に誘われる日々
- ・現代カッパドキア者
- ・目つぶし公園を何とかして
- ・SM樹木や眠れない線たち
- ・コンビニ大好き人間の体内時計
- ・夜の神田川を散歩
- ・黒色のない地下鉄ホーム
- ・サイケデリックな航空障害灯の群
- ・科学が芸術する
- ・ブルーモーメント
- ・リフレクティッドシティ
- ・色づきの光に御用心
- ・ブロイラー・オフィスに单眼う人
- ・さっと照らして直ぐ逃げる
- 探偵団のイベント・パフォーマンス
- ・ライトアップグリラ・イン・品川
- ・鍋田川とベネチアを比較して・・・
- ・香港の夜景は何万ドル?
- ・狂乱の南船ラスペガスの魅力
- ・7040枚のスライド壁面
- ・明るい銀座も曲がり角
- ・涼える夜をわらえ
- ・恥ずかしがらずにテレビに出よう
- ・連続探偵・藤森照信さんを夜に連れ出す
- ・連続実践講座の協賛賞は誰?
- ・芸能と演技の日々

14名の名営探偵から学ぶこと

- ・目からうろこを落とす/藤森照信
- ・暗い男の時代を迎えて/赤瀬川原平
- ・アーユーワードアート? /島田雅彦
- ・自販機と仲良くなれる方法/如月小春
- ・天使の舞う街/田原桂一
- ・進化するコンビニの光/東洋人
- ・地と空の光、今までの都市照明/松葉一清
- ・水と光の格好いい出会い方/篠内秀樹
- ・盛り堪のネオン求めて/島田雅彦
- ・誘う光、誘われる光/妹島和世
- ・花電車への夢/日比野克彦
- ・景色を作ることに慣れて/毎藤春樹
- ・地下世界への誘惑/港千尋
- ・自然光から超自然光へ/伊東義雄

あとがき

巻末データ1・夜景図ガイド

巻末データ2・照明探偵団員になろう

! 投稿規定 !

照明探偵団通信vol.04(次号)の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々にレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿の送付方法は、

- 原稿をテキスト形式で保存したフロッピーを送付
- e-mailで送付(メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOK)
- FAXで送付 ●郵送で送付

のいずれかでお願いいたします。また、このほかの送付方法をお考えの方は、事務局までご相談ください。

【照明探偵団の活動は以下の20社にご賛賛いただいているります。】
ルートロニアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 三菱電機株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社
小糸電機株式会社 ヨシモトボール株式会社 ニッカ電機株式会社 湘南工作機械株式会社 株式会社エルコ・トートー 日本電池株式会社 株式会社ウシオスペックス 金門電気株式会社
大光電機株式会社 日本フィリップス株式会社 株式会社道徳照明

照明探偵団 日記

インターネット真っ盛りの時代です。インターネットで飛び交う情報の渦の中に、我が照明探偵団も果敢に乗り込みます。照明探偵団のサイトをご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、データのアップをこまめに行い、生きた情報を発信する、照明探偵団員の交流の場の一つにできればいいな、と思っています。最近新設された項目として、照明探偵団俱楽部、光のよろすや、団長のつぶやきつづり、があります。照明探偵団俱楽部のコーナーでは、電話でお問い合わせが多い入会方法や、俱楽部活動報告、オンライン化した探偵団通信などを掲載します。光のよろすやは、光はもちろんのこと、都市環境など枠を広げて、展示会、セミナー、イベントなど様々な情報をお届けします。これは団員の皆さんからお寄せいただいた情報をお届けしていくのです。ぜひぜひ、情報をお寄せ下さい。団長のつぶやきつづりは、照明探偵団の面出団長が、気の向くまま、気楽に本音でばつばつとつぶやくコーナーです。字数のきまりも繪め切りもないフランクなつぶやきを、お楽しみに。また、メールやアンケートで寄せられた意見なども随時サイト上で発表し、意見交換の場にしていきたいと思います。まだまだ作成途中のページも多いのですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

(田中 裕美子)

照明探偵団サイト「<http://www.bekkoame.or.jp/~tanteidan/>」

三菱電機株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社
湘南工作機械株式会社 株式会社エルコ・トートー 日本電池株式会社 株式会社ウシオスペックス 金門電気株式会社